

私たちは社会基盤の整備という 誇りある仕事を通じ 常に信頼と共感を得られる 企業として お客様と共に 人生の喜びや感動を創造する



私たちは公的使命と社会的責任を果たすため、法令遵守のもと、透明性の高い経営と財務体質の健全化を図り、魅力ある企業として発展する。

「建設」とは？ 文明・文化であり、進化の過程で地上に刻み続けてきた大いなる営みです。私たちは先人たちが刻んできた建設の歴史に誇りを持ち、新たな価値を創造していかなければなりません。

向井建設は、社会基盤整備に不可欠な躯体工事業者として100年の歴史を有し、お客様に信頼と共感、存在価値を認めて頂き存続してきました。

お客様とは、直接発注を頂く元請、施主、そして完成した建設物を活用するエンドユーザーであり、現場で一緒に働く前工程、後工程の関係者もお客様です。

そのお客様に対し、私たちには与えられた条件や設計図に従い、目的の建設物を創造し、立派な完成品として引き渡していくという使命があります。その過程で、プロジェクトの成功に向けて、お客様と共に悩み、考え、苦勞して工事を完成させていくという、ものづくりの達成感を味わう過程で、プロフェッショナルとして、更に人として成長を実現していきます。

そして私たちの力で完成させた建設物の壮大さや造形美、またその機能やセンスの良さに施主を含めたエンドユーザーと共に感激し、喜びを分かち合うという、人間の内面から発する感動をも創造しているんだということを、全従業員共通の認識にしていきたいと、念じています。

組織は全ての人と社会をより良いものにするために存在しているはずで、言い換えれば組織は、明確な公的使命を持ち、社会的責任を果たしていかなければ、一夜にして崩壊してしまう運命を持ち続けるでしょう。

私たちの公的使命と社会的責任は、先に掲げた経営理念に表されています。またコミュニティーの一員として、自覚と責任を持ち、自らの機能を法律や社会規範を守りながら果たしていきます。

そして建設という事業を通じて効率的かつ戦略的な経営を行い、資本のコストに見合うだけの利益を上げることで、従業員の雇用と生活の安定を確保しつつ、納税という形で国や地域の社会費用に貢献していかなければなりません。また企業にとって「第一の責任は存続である」という観点から、事業に伴うリスクへの備えと自らの未来創造に投資していくことも重要です。

以上のことから私たちは透明性の高い経営により、経済的業績を築き、強い存在感を持つ企業として更なる成長を実現していきます。



社会のニーズと変化に適応して、
組織と人が成長と革新を続ける
挑戦的な企業風土を創る。

「偉大な組織」は変わらぬ使命に従いつつも時代の先を読み、変革をみずから求め、本質を変えずに進化していくとされています。

向井建設も、時代の変化とニーズに呼応して、戦略・行動・プロセスの改変を可能とする組織づくりに努力して参りました。ここに掲げる経営理念の本質を見失うことなく先を読み、自らの事業のあり方を変えていかなければなりません。

現在進行しているグローバルかつ急激な変動が我々の事業環境にとり、いかなる意味をもつのか、いかなる機会を創り出すのか、いかなる改革を有利とするのかを研究し、分析し続ける必要があります。

そのトレンドを読み、トレンドを利用して将来に対するビジョンを掲げ、その実現に向けて組織と仕事のやり方を柔軟に変える挑戦意欲を持ち続け、組織と人が一体となって成長と進化を遂げる革新的な企業として躍進することを目指します。

私たちは常に顧客に聞き、顧客を理解し、
顧客の満足と信用獲得を最優先に、
事業の方向性を定める。

いかなる企業でも顧客無くして事業は存在できず、顧客の満足を得られなければ企業の存在価値はありません。

顧客の多様化するニーズや欲求・希望を聞き、理解してこそ期待される仕事の内容が見えてきます。顧客が買いたいと考えているもの、価値に対して代価を払っていいと思っているものが重要なのです。

向井建設の得意分野やセールスポイントを、顧客や市場の観点から見直すことで、企業の方向性の答えが出てくると言えます。顧客の望むものを私たちが自分たちの得意技としてアピールし、期待以上の成果を提供できる機能を持たせなければなりません。

お客様の信頼に応える誠意ある仕事の継続により、企業の信用は高まり会社の繁栄が実現できるのです。



現場第一線において、競争力ある高い生産性と
絶対安全・絶対品質を追求し、
総力を結集して全体最適に貢献する。

建設という使命を実現することで、お客様や社会から評価を受けるのは、あくまでも現場第一線であります。お客様の視点に立ち、求められるニーズを超えた現場力を発揮することで、信頼性の継続と強い競争力を生み出します。

したがって現場で直接管理業務や実作業に携わる人たちが、常に課題を乗り越える強い意志を胸に、本来持てる力を発揮し高い生産性のもと、絶対に誇れる品質確保と災害ゼロへの取り組みに集中できるよう、上位職も関連部門のスタッフも全力を挙げて支援する連携体制が不可欠です。

個別の業務機能の生産性を上げる部分最適ではなく、顧客ニーズを実現できる現場第一線の効率や生産性を最適化することで、結果的に全体最適に繋がることを強く意識しながら、各自の業務に取り組みます。

企業存続の基盤は「人」であり、
個人の強みと協働による力が最大発揮される
人材マネジメントシステムを確立する。

会社にとり、人材は最も重要な存在であり、また自在にならない特殊な経営資源です。そして人材である前に「人」として、人格と心、固有の能力を持っています。そのため人材は適材適所に配され、生き活きと働ける場所にあるとき最も生きがいを感じ、価値も高く評価され、長期的にも「人財」として成長していきます。

競争力を長期的に維持・強化していくという企業の戦略達成には、こうした人材を確保し人格形成や労働意欲の喚起、働きがいなどに重点を置いた人を大切にする「人材マネジメント」が不可欠です。

ここでいう「人を大切にする」とはこれまで「雇用を大切にする」といった意味で使われてきたケースが多かったようですが、必ずしもそうではありません。

雇用を大切にすることも重要ですが、個人を尊重し、企業がその人の能力やポテンシャルを十分に活用できたとき、人を大切にする経営が行われていると言えるのです。

経営方針に則り、個々人が高い志と明確な努力目標を持ち、自立性のある有能な人材が成長し、その協働の力が更なる相乗効果を生み出して、戦略達成に大きな推進力となるような「人材マネジメントシステム」を確立していきます。